

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1179891201		
法人名	株式会社 あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム越谷		
所在地	越谷市平方393-2		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 3日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5 年 12 月 20 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

あすなろホーム理念 1. いつでも安心して生活できる家を提供します 2. 一人一人の感性を大切に心を込めた介護サービスを提供します 3. 地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します。の理念のもと、R5年は目配り、気配り、心配りを基盤に、入居者・利用者様が安心、安全に生活・利用できる環境を整えると施設目標としました。ひやりはっとでの気づきに重点を置き、ひやりはっから業務改善を実施できるように、カンファレンスで取り組んでいます。また、毎月キッチンカーや訪問販売等を取り入れ、ご家族様も一緒に楽しめるイベントの企画をしています。施設内の支援をご家族様に積極的に発信し、老いや体調の変化、認知症状の進行を共有していくことで、ご家族様が看取り期に混乱なく受け入れられていると感じています。今後も、多職種連携を基盤に施設運営をしていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は毎朝理念を確認してから勤務に就いている。ホーム長は法人理念の基、利用者に対し「気配り、目配り、心配り」の大切さを職員に伝え、利用者の支援を行うことを徹底している。個々の支援は介護計画を基に行う他、職員全員で日常生活の中で感じた利用者の思いを叶える為の提案を「私の気持ちシート」に記入する取り組みを行い、支援に繋げ、家族、利用者から喜ばれている。事業所は地域密着事業として地域との交流を大切にしており、避難場所として事業所を開放する他、催事では近隣の板前さんの協力でお寿司を作ってもらったり、移動販売車に来てもらう等、コミュニティを大切に地域と関わっている。健康管理では、オリジナルのレモン水で1500mlを目標として水分摂取をする他、毎日足浴しフットケアに努め、元気に過ごせる支援に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	飛沫防止のため、朝礼は理念を目視確認。理念を元に月に1度カンファレンス実施。	理念は玄関とフロアに掲示し、毎日朝礼で確認してから勤務に就いている。職員は理念の基「目配り、気配り、心配り」を意識して利用者の異変の早期発見に努め察知する力を付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設前を散歩し、地域の方と挨拶をしたり、訪問販売の導入にて会話を楽しまれている。	天気の良い日は散歩に出かけ、近隣の人とあいさつを交わしている。1週間に1回移動販売が来た時も地域の人と一緒に買い物を楽しんでいる。近隣保育園の園児との交流も楽しみの一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者サロンの導入をし、ウクレレ会の慰問も開催しご入居者様とサロン参加者様の交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。介護者サロンで密に連携を図っている。	2か月毎に地域包括支援センター、自治会長、家族、利用者が参加し運営推進会議を開催している。家族の質問に、認知症や看取りについて勉強会を開催し、ホームでの支援により理解を深めることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護者サロンに越谷市の介護保険課の担当者の方が参加されることもあり、その際報告している。また、運営会議議事録は郵送にて報告している。	行政から、他施設からの受け入れの相談がある時は、行政の担当者と一緒に先方に出向き、面談を行うことがある。また運営推進会議の議事録は郵送で報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階フロア施錠なし。2階は施錠しているが、ご本人様が外に出たいときには、職員付き添いにて対応している。	年2回、研修と身体拘束チェックリストで振り返りや個別面談をおこなっている。常に「自分のこととして考える」ことを大切にしている。アンガーマネジメントではその場から「離れる勇氣」も必要とし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待の勉強会の実施。内出血発見時は内出血報告書の記載とアセスメントの共有。虐待の芽チェックリストを半年に1回実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政主体の成年後見人制度の勉強会に参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけ説明。説明した内容を再度複唱し共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様と職員の会話を設け、施設内での様子、ご家族様のご意向を確認する機会を設けている。ご家族様報告書を作成し、その意見をもとに、カンファレンスで支援内容を見直している。	運営推進会議や家族会、面会時に意見を聞くようにしている。利用料について意見があった。物価高の高騰から水道光熱費とオムツ代の値上げをせざるを得なく、法人代表からの説明を行い家族の理解を得た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニットカンファレンスを実施しており、その際に意見の吸い上げ、その後業務改善につなげる努力をしている。	フロアにより勤務終了時間に差があり、勤務時間の差が生じると職員から意見があった。勤務時間が同じになるように、各フロアの利用者にかかる支援状況を確認し、勤務時間が同じになるよう改善をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回面談実施。業務内容や表情・態度にてその都度面談。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あすなるグループ内の勉強会、埼玉県社会福祉協議会の研修実施。研修受講者より伝達研修実施。研修報告書にて共有。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協議会の連絡会の自施設での開催をし、近隣状況の共有。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族様に生活歴を伺い、その生活歴をもとに支援を組み立てている。ご本人様の発言や態度、表情を汲み取り、記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学相談時に、話しやすい雰囲気にも1か月に1回は状態の確認の電話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、入居時に、計画作成担当者が自施設での介護支援への要望や必要とされていることを聞き、暫定1か月の計画支援で同意を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物管理や食器拭き、掃除など、ご本人様と職員と一緒にやる支援を組み立てている。終了後には感謝の言葉を忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを本人、ご家族様に説明し、方針が意向を合っているか確認する。面会時に現状を密に報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とご利用者様の思い出の地に行くツアーを実施したり、面会制限はせずに、会いたい人に会っていただく機会を設けている	家族や友人の面会はいつでも可能である。友人と手紙のやり取りをしている人もいる。家族と一緒に外出し、お墓参りや馴染みの喫茶店で飲食をすることもある。終末期においては家族が宿泊することもできる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話の橋渡しを職員が行い、なじみの関係性の構築をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1周忌、2周忌と命日に施設に来設するご家族様との時間を設けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制にし、「私の気持ちシート」の記入にてご本人様の思いを汲み取る支援を心がけている。訪問美容も個別支援を取り入れ、カットカラートリートメントまでしたい方の意向も尊重している。	日常会話から把握する他、6か月毎に居室担当者が「私の気持ちシート」を作成している。そこには利用者の思いや気持ちが書かれ、これにより関わる職員は利用者の思いを把握し叶える為の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報提供をいただいたり、本人様からも話を聞き、今までの生活が同じように継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った支援プログラムの実施。体操や歌、アクティビティの選択。歩行練習や散歩を実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の来設時や、状態変化時は電話にてその都度状況の説明、報告を実施し、状況変化時はモニタリングし、プラン変更につなげている。	ホーム長は自宅へ訪問し生活歴や病歴、家族・本人の希望、要望の確認を行い、初回の計画書を作成している。ケースカンファレンスは毎月行う他、居室担当者を中心に3か月毎に見直しをしている。	介護計画書に沿って支援をおこなっているが、更に個々の希望を盛り込むことで、個別性のある計画書を作成し、支援に取り組めるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づき、家族様とのやり取りなど小さい事でも記録に残している。朝礼には口頭申し送りも実施している。月1回カンファレンスで個別支援の見直しも実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内出血がしやすいご入居者様にはアームレストや柵にカバーをつけたり、クッションを当て内出血防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のもと、セブンイレブンの訪問販売や、ボランティアによるウクレレ演奏会の参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の意向にて訪問診療か通院を選択していただいている。受診時は必要があれば職員が付き添いをしている。付き添い不要な場合も現状の状況をまとめた書面をご家族様にお渡ししている。	訪問診療医か入居前の主治医かを選ぶことができる。ほとんどの利用者は事業所の訪問診療を選択している。緊急時カードの他、延命の意向、服薬、病歴、コロナ注射の回数書類等を揃え緊急時に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員と同じシフトで勤務しており、密に情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居中の状態を情報提供し、入院後は相談員、ご家族様と密に連絡をとり、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望を聞き、訪問医を交えて病状説明の機会と設けている。職員にも方向性を伝え、みんなで希望に添える様に話し合いをしている。	契約時に重度化や終末期の指針の説明をし、同意を得ている。ほぼ全家族に事業所での看取り希望がある。利用者の食事量や身体状態の悪化等の時に、医師からの説明を十分にして再確認を行い、体制を整えチーム支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故があった場合は、その場の対応が適切であったか、振り返りを行っている。年に1回AED使用方法の講習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、いざという時の対応について防災訓練を年2回実施している。	年2回災害訓練をしている。今年度は夜間想定で水害時避難、日中想定で火災訓練をおこなった。備蓄品は各利用者が3日分居室に備えている。敷地内の通所介護スペースは地域の避難場所に提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援前から必ず声掛けをし、意思確認をしてから支援を始めるようにしている。申し送り時は呼名は使わず、居室番号で申し送りをしている。	担当職員の用意する研修資料を用い、年1回研修を行う他、申し送り時は個人名を使用せず居室番号を使ったり、書類は事務室で管理をしている。入浴や排泄時は、まずは声かけをしてから支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が飲みたいか、今やりたいことは何かをわかりやすい言葉で本人様から言葉が出るような言い方で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をずらしたり、帰宅願望が強い時には、散歩したり場所を変えて対応している。本人の意向に添いながら支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも使用できるホットタオルを準備している。訪問美容を選択できるようにし、ネイル希望の方はネイルをしていたりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態にし、安全に配慮している。好みによってふりかけ、納豆を提供している。調理レクも月1回必ず実施している。	個々の飲み込み状態に応じ、常食、一口大、ミキサー食等で提供をしている。利用者から希望の食事を聞き、調理レクリエーションやケータリングを取り入れている。水分はレモン水を摂取している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量の記入をし、不足している場合は、声掛けで捕食やお好き水分の提供をに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には声掛けし口腔ケア実施。介助の方には訪問歯科の助言も汲み取り食物残渣の残りやすいところを重点的に口腔ケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、日中は布パンツに切り替え、トイレ誘導にて対応している。トイレ内ではズボンの上げ下ろしや自分でできることはしていただくように見守り支援をしている。	基本、布の下着でトイレでの排泄支援をしている。布の下着にすることで締め付けがなく、自立支援に繋がっている。排泄チェック表を活用し利用者個人の排泄リズムを把握し失敗のない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、レク、歩行のを取り入れている。個別に下剤調整処方往診医からもらい対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間はご本人様希望で対応している。7時台から入浴される方もいれば、午後入浴される方もいらっしゃる。	基本は週2回の入浴としているが、利用者の希望に応じ、入浴の回数や時間帯は臨機応変に対応している。イベントで普段と違うゆずやお茶風呂等、工夫することで、会話も弾み入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が体調や表情を観察しながら、静養時間を提案している。夜間眠れない方には、フロアで気持ちよく過ごしていただけるようお菓子やホットココア等提供し会話する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため、本人様の前で呼名確認、日付、見上げを一緒に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや畳み、食器洗いや食器拭きなどできることは行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	羽田空港で勤務されていた方にはご家族様と羽田空港に外出する機会を設けたり、幼馴染に会いたいと希望された方には思い出の地に職員と出かけたりしている。	毎日の外気浴、散歩の他、利用者の希望に応じ外出支援をおこなっている。家族同行で同じ出身の利用者同士と思い出の場所に行ったり、季節の外出では梅やひまわりを見に行く等、家族の協力を得ながら利用者の喜びに繋がる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替え金で対応し、訪問販売時はご自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族様には、日ごろの様子の写真とコメントを記入したお手紙をお渡ししている。ご家族様との電話支援も実施している。施設形態でテレビ電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように、温度・湿度管理を行っている。壁面は毎月季節感のある作品を掲示し、利用者様と一緒に作成することで、季節を感じ、会話も弾んでいる。	温度、湿度、定時の換気、消毒を行い、感染予防に努めている。壁面には利用者と一緒に作った季節の作品を飾る他、玄関ホールでは季節の音楽を流し、事業所全体で季節を感じられるよう工夫をし、居心地の良い共有空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	川が見える場所に椅子やテーブルを設置し景色を眺めながら過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた筆筒やテーブル、椅子を持ち込まれている。居室内にテレビを持ち込まれている方もいらっしゃる。	馴染みの家具や、仏壇、家族の写真を持ち込んでもらい自室で居心地よく過ごせるよう配慮をする他、身体状況に合わせてベッドや布団の選定や家具の配置を工夫し、安全確保をおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには空き、使用中の札を置き、ご自分で確認し自由に利用できるように配慮している。		